

通信機能付きトレイルカメラ: 確度の高いリアルタイム通報を実現

捕獲檻近辺の状況を遠隔で監視[出没時にリアルタイムで通報]

⇒ 出没頻度(餌付けの定着状況)の把握や、捕獲扉の開閉をチェック



通信機能無しトレイルカメラ：膨大な画像データの処理を省力化

膨大な撮影データを、自動で、獣種毎に分類

通信機能無しトレイルカメラ

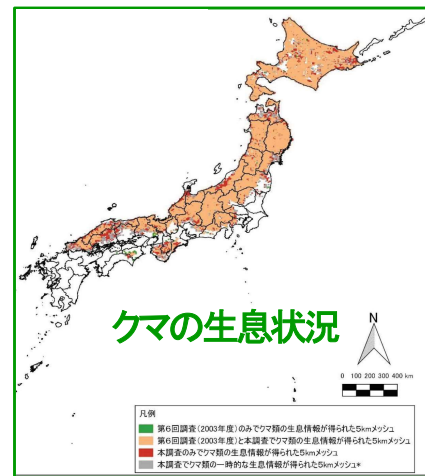


動画データの場合は、
1秒に1枚の静止画に
自動で切り出してから解析
(切り出し時間1秒/枚)



AIの処理速度：1秒/枚

解析後の画像を獣種毎のフォルダに分類



＜AI活用によるメリットの試算＞

現状の労務量[某自治体の例]

- ・年間の撮影データ
⇒ 約4万本/年の動画(1動画あたりの再生時間10秒)
- ・目視確認とデータ整理に要する時間(1動画あたり30秒)
⇒ 約40人日/年
- ・コストへ換算(@税抜き約3万円/人日)
⇒ 約120万円/年

導入初年度：▲ 36万円
2年目以降：▲120万円/年

DX



約84万円
(税抜き)

直営労務量や
委託費の削減に貢献!

AIでデータを厳選することで、
後工程(人間系)の分析精度も向上

害獣AIは 人の検出もできます！

大切に育てた農作物の盗難対策に
AIが活用できないか一緒に考えさせてください



<AIの検出結果(人の例)>

